

新年度のご挨拶

5月1日より248番目の元号となる『令和』が始まりましたが、安倍首相談話による新元号の意味は以下の通りです。

春の訪れを告げ、
見事に咲き誇る梅の花のように
一人ひとりが明日への希望とともに、
それぞれの花を大きく咲かせることができる、
そうした日本でありたいとの願いを込め、決定した。

(ヤドカリコ.com より)



“一人ひとりが明日への希望を持ち、それぞれの花を大きく咲かせる”という願いが込められているのです。

会員の皆様、臨床検査技師として、また令和を生きていく人として、チャレンジ精神と希望を持って歩みそれぞれの花を大きく咲かせていただけると嬉しい限りです。

岐阜県臨床検査技師会は、昨年度と同様に今年度も多数の事業開催を予定しています。講習会や研修会等に積極的に参加していただき、技師会という組織の活性化と個々のスキルアップに繋げていただきたいと思います。また、新年の挨拶でも書きましたが、第58回日臨技中部圏支部医学検査学会を担当いたします。担当県の技師として学会を盛り上げ成功に導いていただけることを今一度お願い致します。

現役員の任期が残り1年となりますが、昨年度以上のやる気を持って各事業にあたりますのでご支援とご協力をよろしくお願い致します。

まもなく開催!

2019年度 春期拡大研修会

テーマ 「敗血症とDIC」
& 定時総会

2019年6月2日 (日) 午前9時受付開始
OKBふれあい会館 3階大会議室 (302)



平成 30 年度精度管理報告会の開催について

関中央病院 佐藤恵彦

平成 31 年 1 月 27 日、東海中央病院にて精度管理事業部報告会が開催されました。今年度の参加者 106 名で、昨年度より 16 名の増加がありました。

各部門の発表は総括を含めて 11 部門あり、各 10 分から 15 分の報告がありました。私が担当する総括では、参加集計の分析と募集から報告書発送までの状況について報告しました。今年度の参加は昨年度より 1 施設増加しており、特に岐阜地区で新規の医療施設が 2 施設ありました。参加施設は合計 80 施設となり参加施設数としては過去最多となっています。


臨床化学は東海中央病院の渡邊先生と岐阜大学医学部附属病院の大森先生が分担して報告しています。渡邊先生は 18 項目の集計分析と評価を担当し、1 次評価で C、D の施設には 2 次サーベイを実施していました。多くの項目が CV1%~3% であり良好な成績でしたが、標準化されていない項目については、標準化を期待するとの事でした。大森先生が担当された項目は標準化された項目が多く、2 次サーベイ後は A 評価に改善されていました。


免疫血清は東濃厚生病院の武藤先生が担当されており、感染症 4 項目、腫瘍マーカー・ホルモン 9 項目、免疫グロブリン 3 項目の分析評価が報告されました。免疫血清の標準化は難しく、分析機種別の分析評価となっていました。サーベイ試料がヒト血清ではなく、市販のコントロールを使用している影響なのか、項目によっては機種間差が大きい項目も見受けられました。免疫血清も C、D 評価の施設は 2 次サーベイを実施して、A 評価に改善されていました。

血液検査は岐阜市民病院の乾先生が担当されました。血球計数 5 項目、凝固 2 項目、フォトサーベイ 10 問が実施されています。集計結果としては白血球数と PT-INR に若干のバラツキがみられましたが、その他の項目の SD、CV% は良好でした。また、PT-INR は ISI 値が大きくなると誤差が大きくなるため、ISI 値が 1.0 に近い試薬を推奨されていました。

一般検査は木沢記念病院の山口先生が担当で、定性・定量 4 項目とフォトサーベイ 10 問の報告がありました。尿糖定量と便中人ヘモグロビンで 2 次サーベイを実施し、何れも A 評価に改善されていました。また、フォトサーベイは正解率が全て 80% を超えており、良好な成績でした。

病理検査は岐阜大学医学部附属病院の片桐先生が担当で、各施設に未染色標本と設問 USB メモリを送付し、フォトサーベイと染色の評価を実施されました。すべての施設が評価 A で良好な成績を得られていました。今回初めて USB メモリによるサーベイを実





評価が報告されました。今回の設問は基本的な問題が多く、2次サーベイは1施設のみで、最終正解率は100%となっていました。

生理検査は9分野に分かれ、心電図が大垣市民病院の北川先生、心臓超音波が木沢記念病院の伊藤先生と高山赤十字病院の倉家先生、血管超音波が土岐市立総合病院の上村先生、腹部超音波が大垣市民病院の今吉先生と大垣徳洲会病院の野村先生、神経生理は東海中央病院の野寺先生と石井先生が担当され、それらの総括として岐阜大学医学部附属病院の渡邊先生が分野別評価の概略を報告されました。項目が多いため詳細については、生理検査研究班が実施する研修会で報告するとの事でした。生理検査は設問の難易度設定が難しく、設問作成にも苦慮されていました。

微生物検査は株式会社メディックの長島先生と岐阜県立多治見病院の八嶋先生が担当され、長島先生からの報告がありました。今年度は試料2問題と、フォトサーベイは昨年までの10問から出題者の負担軽減として5問に減少されていました。今年度は試料の不備や設問に対する指摘もなく、一次評価で全ての施設が全問正解で、良好な成績が得られていました。

輸血検査は、岐阜県立多治見病院の八木先生が担当され、血液型と不規則抗体検査の成績評価について報告されました。全施設でA評価でしたが、試料間の抗体間差が大きい施設があり、判定条件の確認について指摘されました。また、結果を手入力している施設については入力過誤の注意が必要との事でした。

今年度は、特別企画として日臨技専務理事の滝野寿先生をお招きし、医療法改正についてご講演を賜りました。当初の予定では、「医療法改正に伴う標準作業書、日誌等の作成について」の仮題でしたが、内容は医療法改定全般に対する講演で、標準作業書、日誌等の作成についても十分網羅された内容でした。日臨技の活動として、①責任者の育成制度⇒eラーニングの実施 ②標準作業書作成の支援⇒日臨技ホームページにひな形を掲載 ③サーベイ参加に対する拡充策でした。日臨技のひな形に関してはゴールドスタンダードではなく、必要最低限の項目で作成されており、ひな形は参考程度との事でした。また、医療監視は行政で実施されており、法律→政令→省令→通達などの段階があるため都道府県によりチェック内容が違うとの事でした。e-ラーニングに関しては、私も実施していますが、かなり難しい確認テストもあり、厚労省からハードルが高いと指摘されているようでした。

外部精度管理は努力義務となっていますが、将来的には義務となる可能性が高いようでした。

今年度は例年に比べ参加者が多く、医療法改正に対する各施設の関心の高さが伺われました。

平成30年度

精度管理事業部総括集

岐阜県臨床検査技師会
精度管理事業部

第57回岐阜県医学検査学会

平成31年3月31日（日）に、下呂市萩原町 星雲会館にて第57回岐阜県医学検査学会が開催されました。当日は年度末でお忙しい中、また、あいにくの雨模様で肌寒い天候でしたが、107名の参加をいただき盛況のうちに会を終えることができました。



教育講演では、岐阜県立下呂温泉病院 病院長 鈴木 康先生に、『僻地の医療と整形外科診療』と題して、僻地における高齢化の急増と人口減少や都会との医療格差を症例と共に提示して、臨床現場で起きている問題をお話していただきました。



市民公開講座では、一般市民17名の参加のと、

あかうめ音楽教室主宰 赤梅尚子先生による『音楽と健康』のお話をしていただきました。教室の卒業生や

「下呂音楽振興会」、組曲「下呂石物語」実行委員会のメンバーの協力をいただき、「モーツァルトの音楽」の演奏や、下呂市で産出される「下呂石」で作られた2オクターブの音域を持つ「石琴」を使った演奏を、映像を交えながら聴き、音楽が持つ不思議な力のお話を



うかがいました。音楽のヒーリング効果で、癒しのひと時を過ごすことができました。



ランチオンセミナーでは、富士レビオ株式会社様、ベックマンコールター株式会社様による最新の医療情報を講演いただきました。

一般演題では、若手技師を中心に生理 3、微生物 6、一般 1、血液 1、病理 1、チーム医療 2 の合計 14 演題の発表をいただき、どの演題にも質疑が活発になされ充実したものとなりました。また、学術発表の基本的な注意点の指摘もあり、若手技師には有意義なものになった事と思います。

最後に、演者・座長の皆様、広告協賛企業の皆様、学会長をはじめ実行委員・当日運営委員の皆様、そして当日ご来場の皆様、心から感謝申し上げます。

実行委員 下呂市立金山病院 長谷部正仁



岐阜・西濃医療センター

西美濃厚生病院

当院は高田診療所として開設されたのを前身に、総合病院養老中央病院、西美濃厚生病院を経て、

2019年4月よりJA岐阜厚生連 岐阜・西濃医療センター 西美濃厚生病院となりました。

一般病棟187床、地域包括ケア病床63床、療養病床65床のほか、健診センター及び訪問看護ステーション ようろう を設置しています。消化器内科を中心として外科、整形外科などの他にリウマチ外来や認知症外来、頭痛外来、NST外来などの専門的な診療も行っています。巡回健診では内視鏡バスを有し、地域の予防医学に貢献しています。

検査科は臨床検査技師11名（嘱託1名含む）、看護師2名（午前の採血業務）、事務1名（午前の受付業務）で検体検査、生理検査、人間ドック、巡回健診に対応しています。若い技師も多く、技術面や知識面でまだまだ勉強していく事も多くありますが、検査科一丸となってよりよい臨床検査を提供できるよう、日々奮闘しています。

棚橋 正智



第58回中部圏医学検査学会（岐阜）進捗について

実行委員会

第58回中部圏医学検査学会の開催に向けて、実行委員一同鋭意準備中です。

3月末に賛助会員（企業）様に広告協賛趣意書を送付しました。ご協力いただけるようお声掛けいただければ幸いです。

4月20日に学会案内冊子、ポスターを各施設に発送し、“演題募集”が開始となりました。目標「150演題」です！本技師会員からの多数のエントリーをお待ちしております！会場、プログラムの準備もすすめており、逐次学会HP上に掲載していく予定ですのでご確認をお願い致します。

そろそろ実務委員を募集させていただき、会員の皆様にご協力いただく時期になってまいりました。一緒に学会を盛り上げていただきたいと思いますのでよろしくようお願い致します。準備・運営に関するご意見・ご質問がありましたら学会事務局までお寄せいただければと思います。

第7回実行委員会は5月末に予定しております。

第58回中部圏支部医学検査学会

<http://58chubu-kensa.net/>

「飛躍」
～“臨床検査”さらなる展開に向けて～

平成31年度 日曜技
中部圏支部医学検査学会(第58回)

主催：一般社団法人 日本臨床検査技師会中部圏支部
担当：公益社団法人 岐阜県臨床検査技師会

平成31年 10月12日(土)・13日(日)
長良川国際会議場 <http://www.g-ncc.jp/>
岐阜都ホテル
〒502-0817 岐阜市長良橋2-2095-1
TEL: 058-296-1200 FAX: 058-296-1210

学会長： 浅野 敦(大垣市民病院)
実行委員長： 高崎 昭彦(岐阜医療科学大学)
事務局長： 乙訓 貴之(岐阜医療科学大学)

発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

発行責任者 浅野 敦

〒500-8384 岐阜市藪田南3 丁目5 番地 10 コスタ岐阜県庁前 603 号
TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

編集者 高崎 昭彦 松浦 康博 種村 久子
E-mail giringi-office@giringi.jp